

2024 年度 藍野大学自己点検・評価報告書

2024 年度自己点検・評価の結果として、概ね中期計画及び事業計画に沿った目標を達成したと判断する。公益財団法人大学基準協会による機関別認証評価において提言に付された事項についても評価結果より 2 年が経過し、検証した結果、改善に向けた取り組みを行い、一部成果が見え始めた状況にある。

特筆すべき事項として、科学研究費補助金における女性採択比率全国 1 位の獲得と看護師国家試験及び理学療法士国家試験合格者数関西 1 位を獲得した点が挙げられる。これは教育力及び研究力の向上に伴う成果として顕著に表れた結果である。

また、社会貢献・地域連携の取り組みにも成果が見え始め、特に市民公開講座として中学生を対象とした職業体験会の実施や地域連携活動は、大学の教育的資源を広く地域社会に還元する貴重な機会となっている。

一方、昨年度の入学者の結果を踏まえ、「内部質保証・教学マネジメント推進体制」による改善・向上のための取り組みにより、入学者増を達成する結果を得たことは一定の評価をするものの、引き続き志願者の増加に向けた施策を強化・支援していく必要がある。

その他、藍野大学開学 20 周年・大学院看護学研究科開学 10 周年記念式典や 2 学部 5 学科 1 専攻科への改組申請、地域に開かれ、地域に貢献する 3 施設を擁する Aino Life Support Hub (AiLis:アイリス)の創設など、さまざまな施策を打ち出し、達成したことは、教職協働の成果である。

2024 年度の検証を本報告書により実施することで、今後の改善・向上に向けた取り組みをさらに実行していくこととしたい。

[事業計画の進捗・達成状況]

(1) 内部質保証に関すること (内部質保証委員会)

【自己点検・評価： A (B) C D 】

【運営会議評価： A (B) C D 】

KPI	2024 年度計画
内部質保証体制の確立と認証評価	<ul style="list-style-type: none">・大学基準協会第 3 期認証評価の結果を踏まえ、改善課題及び指摘事項について検証し、改善する。・ブランディング広報を担当する組織を整備し、大学認知向上の施策を実行する。・自己点検・評価について定期的な外部評価を受審すべく、他大学との組織間連携について検討を開始する。

<報告内容>

大学基準協会第 3 期認証評価で指摘を受けた科目レベル自己点検・評価プロセスについては、各学科長が確認し各教員にフィードバックを行った。学位プログラムレベルの学部については、学部長が各学科の自己点検・評価内容を確認して作成した総評を内部質保証委員会に提出し、最終的に運営会議で報告及び改善指示を受けた。研究科については、副

学長（教育担当）が各研究科の自己点検・評価内容を確認して作成した総評を内部質保証委員会に提出し、最終的に運営会議で報告及び改善指示を受けた。ブランディング広報については、学長から指示を受け、教育実行組織と連携しながらブランディング広報を行う組織に広報戦略室を位置づけた。自己点検・評価に関する他大学との組織間連携、定期的な外部評価については、協働する大学を絞り込むには至らなかった。

(2) 教育研究組織に関すること（内部質保証委員会）

【自己点検・評価： A (B) C D 】 【運営会議評価： (A) B C D 】

KPI	2024 年度計画
国家資格に拠らない新たな学部の設置	・2025 年度 4 月健康科学科開設に向け準備を進める。また、健康科学科設置に並行し、well-being 促進を目的とする大学発ベンチャー企業を立ち上げる。
看護学研究科後期博士課程の設置	・学内に博士課程後期課程を設置構想について、看護学研究科と健康科学研究科で検討を開始する。
リハビリテーション分野研究科の設置	・2024 年度健康科学研究科開設に伴い、学事を滞りなく進行するとともに、次年度学生募集について計画し、募集開始する。
看護学研究科助産師課程の設置	・2026 年 4 月設置に向けて準備を進める。

<報告内容>

医療保健学部健康科学科学生がトレーニング科学を実践する Fitness-Lab が 2025 年 3 月末に完成した。また、1 期生が NSCA パーソナルトレーナー免許を取得できる 2028 年を目安に健康増進を目的とする事業立ち上げを検討している。博士課程後期課程に関しては、設置指針や設置時期など、申請に必要な事項について看護学研究科長と健康科学研究科長が中心となり準備を進めている。健康科学研究科については、2024 年度に入学した 6 名が 2 年目を迎え、学事は滞りなく進行している。2025 年度入学生は 9 名を予定している。看護学研究科助産師課程については 2026 年 4 月設置を目指している。

(3) 教育課程・学習成果に関すること（教務委員会）

【自己点検・評価： A (B) C D 】 【運営会議評価： (A) B C D 】

KPI	2024 年度計画
アセスメントプラン (学習成果の評価指標)	<ul style="list-style-type: none"> ・2023 年度卒業生を対象とした学習到達度評価結果の集約・検証 ・MLST の結果の集約と検証 ・アセスメントプランの改定 ・これらの学習成果を踏まえた 2025 年度カリキュラム改定に向けての準備と DP の検討

シンメディカル授業の推進（多職種理解を通して職業の専門性を知り、連携した問題解決の方法について討議・学習する授業）	<ul style="list-style-type: none"> ・2024年度のシンメディカルⅠ～Ⅳの準備と実施 ・シンメディカルⅠ～Ⅳの学習到達度評価を見直し、授業内容、評価の再検討を行い、アセスメントプランの改定に反映
国家試験100%合格の達成	<ul style="list-style-type: none"> ・各学科の2023年度の結果の集約と対策の強化
4年卒業率の向上・退学率の減少	<ul style="list-style-type: none"> ・各学科の2019年度入学生以降の卒業率、退学率の推移を集約 ・各学科の退学者の理由の集約 ・各学科の成績不良者、進路変更希望学生の対策検討
累積GPA分布による改善	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年度GPA分布表の作成
卒業時アンケートの活用並びに満足度の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業時アンケートの集約と分析 ・分析結果を教員間で共有し、満足度の低い点について集約し、改善に向けて検討
TOEIC試験スコアの向上	<ul style="list-style-type: none"> ・TOEIC実施の必要性について検討
アクティブラーニングによる授業比率	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニングの授業形態、60%以上の維持
海外提携大学数の増加、短期留学制度の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・国際医療研修の実施
データサイエンス教育の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・FDの実施 ・数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度の申請 ・授業などのDX化の促進
学修行動調査（授業時間・態度）	<ul style="list-style-type: none"> ・1～4年生の学修行動について調査の集約と分析

<報告内容>

2024年度卒業生を対象とした学習到達度評価結果の集約と分析を行った。MLSTの結果の集約と検証の結果、年々リーディングの点数が低下している。これらについては引き続きテスト結果の集約と検討を行う。また、これらの結果をふまえて2025年度はアセスメントプランの見直しを行う。2021年度から2024年度までの学習成果を踏まえ、2024年度に導入した新科目は問題なく進行している。

シンメディカル授業は、2024年度もⅠ～Ⅳを実施した。各学年で授業実施後に授業内容の見直しを行い、学生へのアンケート結果も踏まえ、2025年度も修正しながら開講する予定である。2025年度は、医療保健学部健康科学科も加わり5学科での合同授業となる。

2024年度の国家試験対策は、全学科合格率100%を目標として実施した。その結果、看護学科 看護師 99.1%、保健師 94.7%、理学療法学科 99.0%、作業療法学科 100%、臨床

工学科 76.0%であった（すべて新卒）。臨床工学科については、全国平均を下回っているため、新たな対策も実施しながら、2025年度は全学科合格率 100%を目指して対策を継続する。

4年卒業率については、臨床工学科、作業療法学科、理学療法学科が低下傾向にある。2025年度以降は2学部5学科において、4年卒業率の向上、退学率の減少を目指す。累積 GPA 分布の活用は2023年度より各学科で学生指導に活用するようになり、2025年度も引き続き活用する予定である。

TOEIC の実施の必要性については引き続き検討する。

海外提携大学数の増加、短期留学制度の充実については、2023年度に国際医療研修を再開しており、2025年度も引き続き実施する予定である。

データサイエンス教育の強化としては、2024年度から一般教育科目に「数理・データサイエンス・AI」科目を配置した。この分野のFDについては、2024年度にFDSD部会と連携しながら生成AIに関する研修会を開催した。2024年度に1年生から4年生に対して学習行動調査を行った。主体的学習態度が年々低下傾向にあり、また学習時間も減少傾向である。一方アルバイト時間は増加傾向にあり、両者は関係していることが推察される。2学部5学科全てについて、引き続き調査を行う予定である。

(4) 学生の受け入れに関すること（入学試験・広報委員会）

【自己点検・評価： A B **C** D】

【運営会議評価： A B **C** D】

KPI	2024年度計画
高大連携協定校の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の7校に加え、新たに2校増加を目指す。 ・本学入学志望に繋がる効果的な高大連携内容について検討する。
内部推薦制度の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・明浄学院高等学校看護メディカルコース特別内部推薦を実施 ・総合キャリアコース特別内部推薦について検討
志願者倍率の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・大学志願倍率 2.8 倍を目指す。 ・入試区分別定員数を再検討
入試区分別成績状況、退学率	<ul style="list-style-type: none"> ・1年終了時の入試区分別平均GPAが、（全体平均 GPA -0.35）以上であることを目指す。 ・1年終了時の退学率 1.5%以内を目指す。
修学支援制度の利用者数	<ul style="list-style-type: none"> ・特待生制度（授業料減免）7名 ・自宅外通学者奨学金給付制度7名

<報告内容>

高大連携協定校について、8校（明浄学院高等学校、大阪府立千里青雲高等学校、滋賀県立八幡高等学校、大阪府立汎愛高等学校、追手門学院高等学校、樟蔭高等学校、大谷高等学校、比叡山高校）との締結を終えている。今後も連携協定による受験者増加の効果を

見極めながら、学科の適性に則した高大連携の強化に努める。

内部推薦制度の構築として、明浄学院高等学校の看護メディカルコース及び総合キャリアコース特別内部推薦基準の策定を終えている。特別内部推薦制度の活用につながるよう、明浄学院高等学校生徒への制度周知、大学・学科紹介に努める。

2025年度入学生の志願者倍率は1.34倍となり、目標の2.8倍には届かなかった。新たな入試区分である「作業療法体験型選抜入試」及び「看護基礎学力重視型入試」の導入、さらには地方入試会場の変更など志願者増につながる対策を実施し、一部の入試区分については受験者数が増加したが一般入試での減少が大きく、最終的に作業療法学科、臨床工学科、健康科学科では定員割れとなった。大学入試の主軸が年内に実施される総合型入試、学校推薦型入試へと変化しており、次期中期計画では指定校推薦からの入学者増など適切な目標設定を示すことができるよう検討していく。

入試区分別定員数については募集状況や入試区分の新設に伴い、全学科で再検討し変更している。さらに2026年度入学入試として、新たな入試区分である「スポーツ・文化・社会活動入試」（健康科学科）及び「離島枠入試」（全学科）の導入が既に決定している。

入試区分別成績状況では、総合型選抜入試、学校推薦型選抜入試、一般選抜入試の各区分において、それぞれの平均GPAは（全体平均-0.35）を上回る結果となり、入試区分別に差は生じておらず適切な入試が実施された。また、1年終了時の退学率は3.92%となり目標には届かなかった。他の教育機関への進路変更や学力不足が報告されており、引き続き学生募集における各学科の紹介を丁寧に行っていく。

修学支援制度は、2024年度入学生において特待生制度1名、自宅外通学者奨学金給付制度4名が利用している。また一般選抜入試受験学生に対し「藍野特別待遇制度」を設けており、25名の学生が利用している。

学部生以外の募集状況として、看護学研究科、健康科学研究科については順調に定員数を充足したが、2024年度から募集を開始した臨床工学専攻科は入学者が無く厳しい結果となった。対象が大学生、大学院生、病院職員等となりこれまでの募集活動と異なることから抜本的に見直していく。また、2024年度は組織改編を行い、学長のリーダーシップのもと広報活動に特化した“広報戦略室”を新設し、CMや各種イベントなど、特に新設の健康科学科について広報の充実を図った。引き続き大学の知名度向上、魅力・強みの発信について強化していく。

(5) 教員・教員組織に関すること（教員組織委員会）

【自己点検・評価： A (B) C D 】 【運営会議評価： A (B) C D 】

KPI	2024年度計画
外国人教員の採用、学生に対する指導	・外国人教員の採用について検討する。
教員評価の実施	・教員評価について検討する。

教員のうち博士学位取得率	・70%以上を目指す。
FD・SD公開研修会の実施（参加率）	・教育の質的向上を目的とした演習を含むFDSD研修会を予定し、90%以上の参加率と効果確認を目指す。
授業評価アンケートの活用並びに満足度の向上	・2023年度の授業評価及び卒業時アンケートの検証及び経年比較分析

<報告内容>

外国人教員の採用に関しては今後の課題としている。教員評価については、専門分野における知識経験値を担保する学位・研究業績と、学生教育・大学業務の側面からルーブリック評価を行い、昇任人事を行っている。教員90名のうち博士学位取得者は44名と取得率は48.8%であり、目標の70%以上には至っていない。博士課程への進学推奨、学外研修制度や裁量労働制の導入など教員の学位取得サポート体制を継続する。今年度のFD研修では、「高等教育における生成AIの活用」や「悩みを抱えた学生への修学支援」などをテーマに、教育の質向上に取り組んだ。研修会参加率は研修会終了後の録画視聴を含めると100%であった。

2023年度の授業評価アンケートに関しては、前期に比べ後期の実施率が低くなっていたため、全教員に実施を促すような取り組みを行うことが課題となる。卒業時アンケートに関しては、DPに関わる習得した資質・能力において、前年度比で上昇傾向を示していた。また、大学生活における満足度に関しては「正課外の活動」の満足度が低下していたが、これはコロナ禍による活動自粛が影響していた可能性があるため、経年的な調査を続けていきたい。

(6) 学生支援に関すること (学生委員会)

【自己点検・評価： A (B) C D】

【運営会議評価： (A) B C D】

KPI	2024年度計画
学習支援システム (manaba)の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・manabaを用いた学部全体としての学力調査の問題作成と実施方法の検討・実施 ・学部全体の学習支援体制の抜本的な改革案の策定
求人情報システムの刷新	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業時アンケートの内容を踏まえ、「求人検索NAVI」の利便性の改善と利用率の向上
キャリア講座の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・現在実施中の「認定看護管理者教育課程」および申請中の「認定理学療法士教育機関」に加え、新たなキャリア講座の設置を模索し実施を検討する。
卒後研修会の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・校友会との連携研修会の実施方法・内容を再検討し、参加者数の増加に努める。 ・コロナ禍で中止中であった卒業生対象の研修会を各学科(学部)で再開する。

施設の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> ・2024.4 より開始のカフェスペースの学生（教職員含む）の利用状況把握 ・キッチンカーの利用状況の把握と学生アンケートに基づくサービスの向上(設置場所や実施業者の見直し)
バイク通学制度の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・2024.4 より開始したバイク通学における制度の検証と利用状況の把握 ・2025 年度には駐輪場の整備を再検討する。

<報告内容>

学習支援システムの活用については、学部全体としての学力調査を検討したが、解剖学や生理学などの4学科共通科目においても臨床で問われる知識や国家試験出題傾向に相違があるため、共通テストの実施は難しいという判断となった。そのため、学科別で経時的に学力調査を行った。抜本的な学習支援改革としては、各学科全学年に対して、学習支援実施回数の増加、成績下位学生への学科・学年の進捗に合わせた支援及び定期的なテストの実施とフォローの体制を整えた。

求人情報システムの刷新と卒後研修会の実施については、「求人 NAVI」の利用を促すため、各学科の4年生へ学科から進路希望登録・進路報告登録のアナウンスを徹底した。アクセス数は昨年度の2,529件から2,407件に減少しているが、10月までのアクセス数は昨年度から増加しており、就職活動の時期が早まっていると考えられる。卒後研修会は、校友会協賛の下、卒業生対象セミナーをキャリア開発・研究センターで2022年度より行っており、今年度は10月19日に実施した。卒業生の参加者がいなかったため、卒業生への周知が今後の課題である。各学科の卒後研修会は、作業療法学科が11月24日に日本作業療法士協会会長を招いて卒業生セミナーを実施した。理学療法学科では、年5回の卒業生セミナーを実施した。また、卒業生間の交流を目的に「交流会大会」も年1回実施した。2024年度実施できていない看護学科や臨床工学科については次年度の実施に向けて検討する予定である。

キャリア講座の設置については、キャリア開発・研究センターとの共催で「認定理学療法士臨床認定カリキュラム教育機関」を開催した。認定看護管理者教育課程は継続実施中である。新たなキャリア講座の設置については、キャリア開発・研究センターとともに今後も検討する。

大学施設の有効利用については、MLC1階カフェスペースに「pasapas（パザパ）がオープンした。学生へ満足度等のアンケートを2025年3月に実施しているため、2025年度はさらなる活性化へ向けて課題解決等に取り組む予定である。

2024年度よりバイク通学の運用を開始し、現在41名の学生が申請し利用している。指定スペース外に駐車していたバイクには注意勧告し、その後は指定場所への駐輪を守っている。バイク通学者に大きな事故はなかった。

(7) 教育研究等環境に関すること (教育・研究推進委員会)

【自己点検・評価: A (B) C D】

【運営会議評価: (A) B C D】

KPI	2024 年度計画
科学研究費補助金採択数	<ul style="list-style-type: none"> ・新規採択数 10 件程度 ・科研費採択者の研究内容をホームページで紹介 ・採択数増加のために申請内容の事前チェック体制を強化
科研費以外の競争的研究資金採択数	<ul style="list-style-type: none"> ・新規採択数 5 件程度 ・競争的資金募集情報の Slack での提示 ・競争的資金獲得研究者の氏名とテーマをホームページで公開
受託研究、奨学寄附金件数	<ul style="list-style-type: none"> ・新規採択に向けての研究強化 ・産学協同事業の展開とトランスレーショナルリサーチの強化
研究員、客員研究員の受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> ・新規研究員、客員研究員の選出 ・連携企業における研究員の受け入れ ・研究支援体制の構築
特許出願及び取得	<ul style="list-style-type: none"> ・新規特許取得に向けての研究推進
中央研究施設による論文発表及び知的財産の管理及び活用	<ul style="list-style-type: none"> ・中央研究施設における研究成果の発表（5 編程度） ・中央研究説における研究活動の広報強化 ・学部生や大学院生の研究推進 ・高大連携による中央研究施設の利用推進

< 報告内容 >

2024 年度の新規科学研究費補助金採択数は 6 件から 8 件へと増加し、継続課題 25 件を合わせ 33 件の採択数となり大幅に増加した。また、前年度全国 2 位であった女性研究者科研費採択比率は今年度全国 1 位となった。科研費採択数増加に向けた試みとして優秀研究賞と研究奨励費の支給に加えて、科研費の事前レビューを継続実施している。優秀研究賞と研究奨励費及び科研費の採択者については、年度末に中央研シンポジウムにて講演をしていただき、藍野大学の研究アクティビティの高さを示すことができた。Slack で情報提供を始めた科研費以外の外部資金については、積極的に応募を募る仕組みを検討している。高大連携による中央研究施設の利用についても引き続き、継続課題とする。その他は概ね予定通りに推移した。

(8) 社会連携・社会貢献 (社会貢献委員会)

【自己点検・評価: A (B) C D】

【運営会議評価: (A) B C D】

KPI	2024 年度計画
提携プロスポーツ団体の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・新たにプロスポーツ団体（障がい者スポーツを含む）との連携を検討
健康増進事業の連携先からの評価・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・実施プロジェクト前後で自治体と効果検証（会議等）を実施 ・自治体や介護予防事業への大学教員及び学生の参画

市民公開講座の参加実績増加	<ul style="list-style-type: none"> ・学校法人藍野大学内で共催あるいは学部レベルでの講座を企画実施し、合計 200 名の参加を目標とする。
藍野グループ（病院等）で開催する市民公開講座への学生・教員の参加数	<ul style="list-style-type: none"> ・藍野大学教員及び藍野病院スタッフの共同による市民公開講座やイベント（講座等）を実施 ・教員だけではなく学生の参加を促す。
藍野グループ共催イベントへの学生参加	<ul style="list-style-type: none"> ・藍野大学教員及び藍野グループスタッフによる太田地区の高齢者を対象とした身体機能測定会を実施 ・藍野病院「あいのまちの保健室」に大学教員及び学生参画する。
包括連携協力協定	<ul style="list-style-type: none"> ・連携協力協定を締結した施設との具体的な活動を検討する。

<報告内容>

今年度も、各学科による個別の取り組みに加え、学部全体としての社会貢献活動に力を注ぎ、「市民公開講座」や「はつらつと生きるための健康講座」、さらには「茨木市×藍野大学共同事業」など、地域と連携した多様なプログラムを展開することができた。

特に茨木市との共同事業においては、単なるイベント実施にとどまらず、プログラム終了後に茨木市関係者との意見交換を目的とした会議を開催し、内容の振り返りと効果検証を行うことができた。

第1回市民公開講座は、藍野大学及び藍野大学短期大学部の共催により開催し、58名の市民が参加した。さらに今年度は、第2回市民公開講座として、高大連携部会の協力のもと、初めて中学生を対象とした職業体験会を実施し49名の参加を得た。これら2回の講座には、合計で107名の地域住民及び中学生が参加し、大学の教育的資源を広く地域社会に還元する貴重な機会となった。

また、「いばらき×立命館 Day2024」「茨木市健康フェス」「太田地区敬老会」など、地域自治体が主催する複数のイベントにおいても積極的に出展し、教員のみならず多数の学生がボランティアとして参加することができた。地域連携プロジェクト助成金においては、今年度5件を採択し、茨木市をはじめとする地域住民や疾患を有する方々と直接的に関わる活動を展開した。これにより、学生にとっても地域課題と向き合いながら実践力を培う機会となった。

さらに、包括連携協定を締結している施設における取り組みの一環として、防災訓練への学生の参加に加え、施設スタッフへの研究支援や学会発表のサポート、勉強会への講師派遣など、活動の幅が着実に広がっている。こうした継続的な連携を通じて、学生にとっての実践的な学びの場が確保されるとともに、施設側からも研究の進展といった具体的な成果が報告されるなど、連携の成果が徐々に形となって現れ始めている。

2025年度においても、藍野グループとの共催によるイベントを積極的に企画し、教職員のみならず学生も主体的に地域貢献活動に関われる機会を一層充実させていく。

(9) 藍野大学中央図書館 (中央図書館)

【自己点検・評価: A (B) C D】

【運営会議評価: (A) B C D】

KPI	2024 年度計画
市民に開かれた図書館として、市民開放	・館内レイアウトの見直し
書籍に対する興味・関心の向上	・図書館主催行事の積極的開催 ・医療系図書に加え一般図書の鮮度および展開強化 ・電子リソース利用強化の施策

<報告内容>

市民開放実施への段階として創業者からの寄贈図書を中心とした新たな閲覧室「小山文庫室」の運営を開始した。蔵書数約 3,200 冊の中には医療系のみならず小説や芸術といった一般図書も多数展開している。長期休暇期間に地域の中高校生向けの自習室として図書館を開放した。

2023 年度に引き続き「ランチタイム図書館」といった移動図書館の実施し、また季節のテーマや職員による推薦図書のコーナー展開を前年度より増量し SNS を駆使した学生へのアナウンスに重点を置いた。電子リソース利用促進のため学生対象のガイダンスを学科単位のみでなく個別の対応も積極的に行い学生の図書館利用を多方面から促進する支援を行った。

(10) キャリア開発・研究センター (キャリア開発・研究センター)

【自己点検・評価: A (B) C D】

【運営会議評価: A (B) C D】

KPI	2024 年度計画
認定看護管理者教育課程	・セカンドレベル定員充足を見据えた新たな募集対象施設の拡充 ・近隣病院 25 施設以上への訪問活動のさらなる充実
認定理学療法士養成講座の開設	・認可を受けての確実な講座開講の実現 ・本格的な募集活動による講座定員の充足 (40 名)
大学院進学者の増加	・過去の修了生に対する DM および募集案内資料の送付 ・キャリア受講生からの進学者を 1 名以上確保
病院独自奨学金の獲得	・包括連携協定病院を念頭に置いた奨学金制度創設の本格検討 ・新ホームページにおけるランディングページの設置
公開講座	・あいの祭とコラボした卒業生対象講座の継続実施 ・受講生および医療従事者を対象としたスキルアップ講座の実施

<報告内容>

キャリア開発・研究センターの主力事業の一つである「認定看護管理者教育課程」ファーストレベルは 68 名の応募があり、前年度に続き定員充足 (55 名) となった。しかし、セ

カンドレベルは 30 名の応募（29 名受講）に留まり、定員を充足（35 名）することはできなかった。今年度は定員充足のための新たな施策として、近隣の訪問看護ステーションを募集対象施設（139 件）として追加し、また昨年度に募集リーフレットを送付した 1,035 施設の過去 5 年間の受講状況を分析し、施設訪問による募集活動を継続した。教育訓練給付制度の利用促進の広報活動も継続しており、セカンドレベル受講生のうち 11 名が利用した。施設訪問は主に年度末に実施したが、派遣施設である看護部における人材育成予算の計画立案時期を考慮した年間施設訪問計画を検討し、受講生の獲得につなげていきたい。

今年度に関講した「認定理学療法士養成講座」に関しては、定員を大幅に下回り 11 名の参加であった。研修終了後に研修方法や時期などを抜本的に見直し、次年度の運営方法や広報活動などについて検討を重ねた。今後は、本学実習施設や理学療法学科卒業生のみならず、対象を限定することなく定員充足に向けた募集活動の強化に取り組んでいく。

次に、本学大学院への進学を促進するため、ファーストレベル及びセカンドレベル講座受講生への広報活動を継続し、これまでのセカンドレベル講座修了生を対象に募集案内資料を送付したが、修了生からの進学はなかった。これらの研修受講期間中の広報について検討し、受講生の大学院への関心を高め進学へつなげたい。今後も、セカンドレベル受講生募集のための施設訪問時にも、看護学研究科への進学希望者の掘り起こし、2026 年度開講予定の助産師コースの広報も行っていく。

講演会・セミナーについては、看護管理者研修修了生フォローアップ研修や看護職のキャリアアップ研修は参加者も多く定着してきた。しかし、「卒業生対象セミナー」は参加者が少なく、今後はその企画に関する再構築を行い、また卒業生だけでなく受講生や一般参加者が気軽に参加できるセミナーを検討し実施する必要がある。

スカラシップ修学支援事業は、2025 年度に包括連携協定病院への具体的な訪問（アクション）を起こせる人員体制を再整備した。